

先日12月17日（木）、福生市「長沢倶楽部」に於いて、福生青年会議所第112回通常総会が執り行われました。2016年度の理事長所信を始め、組織の件、運営の件、予算の件など次年度に向けた重要議案が滞りなく可決されました事をまずご報告させていただきます。

当日は、2015年度から2016年度へバトンを渡すべく、堂西理事長から今年度共に走り抜いたメンバーへの感謝の言葉と、次年度太田理事長へ大きな期待を込めた激励のお言葉を頂戴し、会が始まりました。議案においては、次年度太田理事長の2016年度に向けた力強い意気込みが感じられる所信を始め、それに続き次年度小山田委員長、次年度荻原委員長の期待溢れる委員会方針が語られ承認されました。その後専務、監事によるバッチ交換が行われ次年度への引き継ぎが行われました。新入会委員伝達式では新たな力強い仲間一人増えました。本木 賢太郎君です。最初の挨拶では福生青年会議所メンバーと共に地域貢献に対し尽力していきたいと、頼もしい言葉を頂きました。次年度に掛ける期待がますます大きくなり大変嬉しくなりました。最後の監事講評では、20名という少数精鋭の中でスタートする次年度に対し、暖かい励ましと、力強い激励の言葉を頂戴し会が全て終了致しました。今回特に、セレモニーに於いて今年度の卒業生5名にて編成させて頂きました。最後のセレモニーにそれぞれが思いを込めて登壇させて頂きました事、心より感謝申し上げます。これを持ちまして2015年度総務・運動発信委員会の運動は全て完結とさせていただきます。皆様一年間お支え頂き本当にどうもありがとうございました。

総務・運動発信委員会 委員長 福島 将人



JCI  TM

福生青年会議所

放て! Positive Change!!

～笑顔、感動、感謝のまちづくり～



INDEX

特集

野口 監事雑感
堂西理事長挨拶
例会のご案内

事業・例会・その他報告

新入会員募集中

- ★青年会議所は20歳～40歳の「品格ある青年経済人」であればどなたでも入会できます。
- ★福生青年会議所では、福生市・羽村市・瑞穂町の2市1町およびその近隣（青梅市・あきる野市・昭島市・武蔵村山市・立川市・入間市等々）に在勤、在住の方の入会を募集しています。

例会などイベントの参加、見学、お問合せ、大歓迎。お気軽に！



HP



mail



FB

発行元：福生青年会議所 総務運動発信委員会
〒197-0022 東京都福生市本町112-2
福生商店街協同組合会館1階
TEL；042-551-6004 FAX；042-551-6024
HP；http://fussajc.com/ E-mail；info@fussajc.com

青年会議所とは？

- 青年会議所（通称JC）は、「明るい豊かな社会創り」のため、志ある若者が相集い、主体的に多様な活動を行うところです。現在、JCは世界中に存在し、日本では全国711の地域に約4万人の現役メンバーが在籍しています。福生青年会議所は、1978年の発足以来、福生市、羽村市、瑞穂町の2市1町をエリアに活動しています。

会員募集中!!→くわしくは裏表紙を御覧ください。

特集

野口 監事雑感

2015年度福生青年会議所
監事 野口 哲也

鈍感耳の私にまで「次年度理事長が決まらない」という噂が入ってくるくらいだから、よほど事態は深刻なのだろうと心配していたら、堂西君が引き受けたとのニュースが。まちづくりへの熱い思いや論理的な思考など、「いずれは理事長になる器」と確信していましたが、役職の経験を積まずして理事長の大役を担うのはあまりに無謀。時期尚早だと思いました。しかしそれを理解できない堂西君ではないはず。

つまり船長のなり手がいないほどに「福生青年会議所丸」は難破寸前なのだと悟りました。彼のキャリアなら浮き輪を付けて船から跳び降りてもそれほど後ろ髪を引かれなかったはず。しかし、彼は自ら船長となって船を率いるという最も困難な道を選んだのです。それは福生青年会議所史上、屈指の勇気であったと今も確信しています。その彼からありがたくも「外部監事」の依頼を受け、同船することになりました。

それまで丘から眺めながら「沈みそうだな」「ちっとも前進してない」と批判ばかりしていた私ですが、乗船してその思いを改めました。みんな必死で浸水と戦っているではありませんか。たどたどしく、時にぶつかり合いながらも、体制を必死に立て直そうと試行錯誤しているではありませんか。わずかな前進ではあるがそれがどれほど価値あるものなのか初めて理解できました。

順風満帆の航海ほど船員に心地良いものではありません。丘からも大きな喝采を浴び、船長も鼻高々。それに比べて浸水対策のなんと地味なことか。でも、その作業無くして航海は続けられないのです。堂西理事長の拳手とメンバーの地道な作業がなければ37年に渡って航海してきた「福生青年会議所丸」は確実に沈没していたのです。現役メンバーの皆さんはどうかそのことを誇りに思ってください。

来年、私は「普通のシニア会員」に戻り、皆さんの船に乗ることはできませんが、今度は丘の上からではなく、別の船に乗って皆さんを追いかけ、熱い声援を送り続けたいと思います。がんばれ、福生青年会議所！

2016年度のご案内

京都会議のご案内です。

日程は1月21日(木)～24日(日)で、23日夜18:00(予定)にL O Mナイトを開催します。次年度理事長太田君を盛り上げるためにも、多くの方のご参加を募っております。京都でL O Mのみんなと楽しい一時を過ごしませんか？

気になる方は次年度専務予定者 田邊 (tanabekazuhide.jc@gmail.com)までご連絡ください。よろしく願いいたします。

卒業式、クリスマス例会のご報告

12月6日に開催したクリスマス例会後に同会場にて2015年度福生青年会議所卒業式を執り行いました。今年度は木村健一君、福島将人君、島岡伸一君、吉本雅己君、濱田太郎君の5名が卒業となりました。卒業生の皆さんから思いのこもった答辞を頂くことができ、とても印象に残る式であったと感じます。残された現役会員として、卒業生からの熱いバトンを受け継ぎ、来年度福生青年会議所の運動を活発にしていきたいと思います。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

先の12月6日(日)、2015年度福生青年会議所第524回 12月例会を昭島のフォレストイン昭和館シルバンホールにて開催致しました。

クリスマス例会として、青年会議所の会員と私たちの運動を支えてくださるシニアクラブ会員や家族と、2015年度の運動を振り返り、2016年度に向けて思いを強固にしました。また当日はご来賓として井上信治特別会員とご家族様にもご参会いただきました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

クリスマス例会の最後には、卒業生によるバンド披露の余興があり、卒業生らが秋口から隠れて練習を重ねていた成果で、ご参会いただいた皆様を楽しませていました。

設営担当委員会として、2015年度最後の例会を、堂西理事長ならびに2015年度執行部の面々、及び本年度の5名の卒業生への感謝と労いの想いを込めて設営させていただきました。この想いが少しでも伝わっていると嬉しく思います。





「ツグミ」としての誇り

「托卵（たくらん）」という言葉をご存知でしょうか？

カッコウという鳥は、自らの卵を産む時、ツグミなど他種の鳥の巣に産み落とします。ツグミの巣の中で卵からかえったカッコウの雛は、ツグミの親鳥から供給されるエネルギーを独占するため、ツグミの雛や卵をことごとく巣の外に排除します。それでも、ツグミの親鳥は、一向に欺かれていることを知らず、ただ本能のうながすまま、巣の中の雛を——自らの子を酷く屠ったカッコウの雛を——かいかいしく育て、巣立たてます。

この「托卵」を逸話に引いて、「資本主義社会においては、カッコウのごとく賢く強くなるほかない！カッコウのごとく、現代を勝ち抜け！」と論じた御仁がいました。

先日、その方とあるご縁に恵まれましたが、結果的にお断りを申し上げることになりました。カッコウの托卵を露悪的に経済活動の「弱肉強食」に擬えて論賛するなど、私が福生青年会議所に入会する際に重んじ、また入会後に涵養されてきた精神文化からは、あまりにもかけ離れた哲学にあるからです

Faith in God gives meaning and purpose to human life

自らの「個」を超えた歴史や生命の連続性に人生の意義や目的を見出す。JCIクリードの冒頭の一節に照らせば、寧ろ、欺かれようと屠られようと命を慈しみ育むツグミのあり方こそJAYCEEとしての理想に近いではありませんか。

身を削る「真心」の文化

先日、『海難1890』という映画を観ました。史実に基づいた感動的な物語でした。明治の黎明期、和歌山県串本沖で遭難したトルコの軍用船「エルトゥールル号」の乗組員を、貧しい現地の漁民が救います。救助にあたった漁民たちが暮らすのは、紀伊大島という小さな島の漁村です。一日漁に出なければ自分たちがその日食うものにもこと欠く暮らしのなか、老若男女全ての村民が心を一つにし、文字通り身を削るようにして、トルコ人船員の救助にあたります。そこには「海の恵みによって活かされている民として、海で遭難した者は誰であれ必ず率先して救う」という精神文化・生活文化が生きていました。

この史実によって紡がれたトルコと日本の「国家の主権を超越」した絆は、時を超え、イラン・イラク戦争や東日本大震災に及んでもその篤い友情が実像を結びます。

映画の中で、漁民たちの献身の動機やその背景にいきづく文化が、「真心」という言葉で言い表されていました。



「明るく豊かな社会」とは真心や志に満ちた社会

日本の青年会議所は戦後間もない焼け野原の東京から立ちがりました。

誰もが食うに事欠く焦土の上に「戦後日本の再建は我々青年の仕事である」という篤い使命感と決意によって立ち上がったのがJCであります。

我々には、この先輩方の「志」を受け継ぐ覚悟と資格が宿されています。

再び映画からの引用になりますが『デビッド・ゲイルの生涯』という映画の中で次のようなセリフに出会いました。

Living by your wants will never make you happy.

(欲望に生きることは幸福でない)

What it means to be fully human is to strive to live by ideas and ideals.

(真に人間らしく生きるためには、信念と理想によって生きようと努めることだ)

Not to measure your life by what you've attained in terms of your desires,
but those small moments of integrity and compassion, rationality, even self sacrifice.

(どれだけ欲望を満たしたかによって自身の人生を計ろうとしてはならない。人生は、その瞬間瞬間における誠意や思いやり、純粋な理性、あるいは自己犠牲によって決まる)

Because in the end, the only way that we can measure the significance of our own lives
is by valuing the lives of others.

(自身の生がどれだけ尊いものか。それを計るのは、唯、他者の生にどれだけ価値をもたらしたかによる)

そして最後に『アドラー心理学入門』（岸見一郎）より。

「全人類のために何かをするというのではなくて、あるいは全人類を何とかしようというのではなくて、今日ここでこうして接しているこの人との関係を少しでもより良いものに変えようと努めることが、ひいては全人類を変えることにつながる」

一年間、2015年度福生青年会議所を支えていただき本当にありがとうございました！

2016年は、偉大なる太田理事長を後世に福生青年会議所「中興の祖」と呼ばしめるべく、心を一つにしましょう！